NCGM PRESS

https://www.ncgm.go.jp/

National Center for Global Health and Medicine　センター病院広報誌

2024 10 October

Vol.14

TAKE FREE

発行日：2024年10月15日

CONTENTS

◉注目の診療科 2 循環器内科　廣井 透雄先生に聞く
◉注目の診療科 3 放射線診療部門（診療放射線技師）の紹介
◉リエゾン精神看護専門看護師

高度な総合医療を提供する事で地域医療へ貢献し、感染症に強い、総合病院を目指して邁進しています。

新病院長
宮嵜 英世（みやざき ひでよ）
泌尿器科診療科長
第一泌尿器科医長

７月より院長に就任いたしました宮嵜英世と申します。

来年4月に国立感染症研究所と統合し国立健康危機管理研究機構（JIHS、ジース）が発足するのにむけて、NCGMでは準備がすすめられております。新機構には感染症サイエンスセンターとしての働きが求められております。センター病院におきましては、統合後も平時には今まで通り高度な総合医療の提供を継続し、地域医療への貢献をおこなってまいります。そして有事にむけて準備をして、感染症に強い総合病院を目指してまいります。診療連携登録医の先生の皆様におかれましては、引き続きNCGMとの連携をお願いするとともに、さらに連携を深めることでよい関係性を構築させていただければ幸いです。

副院長
放生 雅章（ほうじょう まさゆき）
広報、総務、診療教育担当

24時間体制で診察、治療に取り組む循環器内科 放射線診療部門、リエゾン専門看護師を紹介

10月となり、やっと暑さも一段落となりました。コロナ患者については、NCGMにはまだ重症患者が時に搬送されてきており気の抜けない日々は続いております。NCGMの活動を紹介するNCGM　PRESS Vol.14をお届けします。今号ではまず、24時間体制で冠状動脈疾患や不整脈治療に取り組む循環器内科からは新たに取り組まれている下肢動脈治療や心臓リハビリテーションについて紹介いただきます。

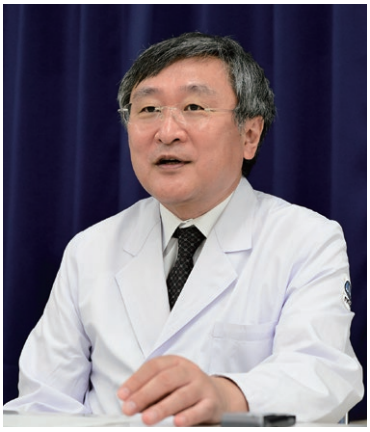
放射線診療部門からは検査の安全への取り組みと最新の治療機材について、リエゾン専門看護師からは高齢化社会における地域連携の観点に立った精神看護に関する取り組みが紹介されています。今後ともNCGMをよろしくお願いいたします。

Featured Medical Departments

注目の診療科 2 循環器内科

24時間体制で緊急検査、治療対応を行い 地域の医師との顔の見える関係づくりを大切にしていきたい

廣井 透雄（ひろい ゆきお）
副院長・循環器内科診療科長
第一循環器内科医長・心理療法室長



さまざまな症状を診る科

胸痛、動悸、息切れ、階段や坂道での苦しさ、脈が飛ぶ感じ、気を失う、足のむくみ、間欠性跛行など、循環器内科には、さまざまな症状の患者さんが訪れます。健康診断で心電図異常を指摘されて来られる場合もあります。診療している主な疾患は、狭心症、心筋梗塞、不整脈（心房細動、発作性上室性頻拍、徐脈）、心不全などの循環器疾患です。高齢者に多いものの、若年層でも発症することがあります。

先進的な治療を提供

当院は、救急医療が盛んで重症例を多く受け入れていれます。そのため、合併症にも対応できる総合力に加え、ECMO※1などの補助循環装置、石灰化病変への対応、リードレスペースメーカーなどの機器を整備し、先進的な治療を提供していきます。あわせて、入院期間の短縮にも注力しています。

その一つが地域連携で、新宿区医師会の催しに参加したり、開業医向けの勉強会を開催するなど、地域の医師との『顔の見える関係づくり』を大切にし、診療情報提供時には、わかりやすい表現とていねいな説明も心掛けています。

基幹病院として原久男医長とともに若手医師の育成や新しい技術の導入と定着にも努めています。

早期に自宅や施設へ

現在は、ハイブリッド手術室の整備を進めており、施設要件が整えば、心臓血管外科と低侵襲のカテーテルによる心臓弁膜症治療を開始予定です。開業医の先生方から早めに患者さんを紹介していただき、速やかに診断と治療を行い、自宅や施設へ退院していただく事を目指します。

入院中は積極的にリハビリを行い、ADL※2の低下や認知症の進行を抑えるようにしています。食べられる、歩ける状態を損なわずに元の日常生活に復帰していただく、これが一番の理想的な循環器診療です。

※1：エクモ(ECMO)はextracorporeal membrane oxygenationの略で、「人工肺とポンプを用いた体外循環による治療」を使用する医療機器。
※2：ADLとはActivities of Daily Livingのことで、日常生活を送るために最低限必要な日常的な動作「起居・移乗・移動・食事・更衣・排泄・入浴・整容」などの動作のこと。

冠動脈治療センター

山本 正也（やまもと まさや）
循環器内科医師

専門医・認定医が多数在籍 安心・安全な治療を

年間約250例、2012年から累計3800件以上の心臓カテーテル治療を行なっています。特徴としては365日24時間体制、3次救急を担う救命救急センターとのシームレスな連携、院内の各診療科と併存疾患にも対応、高度な医療技術の提供（ロータブレーター、ダイヤモンドバック、血管内砕石術、方向性冠動脈粥腫切除術）、心原性ショックへの補助循環装置の提供（インペラ、エクモ）などです。

日本心血管インターベンション治療学会専門医・認定医が多数在籍し、豊富な経験を活かして冠動脈疾患の患者さんに安心、安全に治療を受けていただけるよう心がけています。ご紹介をお待ちしております。

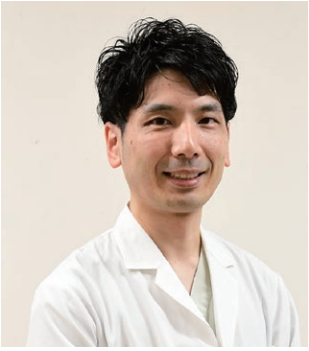
不整脈治療センター

榎本 善成（えのもと よしなり）
循環器内科医師

各々の患者さんにあった 不整脈治療を

不整脈治療は、経過観察から緊急性や重症度により薬物あるいは非薬物治療が必要となる場合があります。当院は日本不整脈心電学会研修認定施設であり、各々の患者さんに最適な不整脈診療を提供しています。非薬物治療であるカテーテルアブレーションや心臓デバイス治療についても積極的に治療を行っており、特にカテーテルアブレーション治療では高い手技成功率を収めています（2023年度アブレーション件数150件、最新版の3次元マッピングシステム（Ensite X system）を使用し、観察期間2.2±1.3年において心房細動術後洞調律維持率82・7％）。ご紹介をお願いいたします。

下肢動脈治療



久保田修司（くぼた しゅうじ）
循環器内科医師

生活の質を改善する 下肢動脈治療

当科では腸骨動脈から膝下の血管に至るまで、薬剤溶出性バルーンやステントを含むカテーテルによる血行再建術を年間40例ほど施行しております。対応可能な病変では、患者さんの負担が少ない橈骨動脈穿刺による治療も積極的に行っており、薬物療法や外科的治療も含め、経験豊富な専門医が患者さんの希望や血管の状態に合わせた最適な治療をご提案いたします。また創傷ケアを要する場合などは、皮膚科、糖尿病代謝科、リハビリテーション科など関係する診療科で協力して包括的な治療を行っております。早期治療が良い予後につながりますので、間欠性跛行や足の血圧が低値の方を是非ご紹介ください。

心臓リハビリテーション

中川 尭（なかがわ たかし）
循環器内科医師

岡崎 徹（おかざき とおる）
循環器内科医師

心臓リハビリテーションの 取り組みについて

当科では様々な循環器疾患を診療しておりますが、年々患者さんの高齢化、重症化が進んでいます。早期の日常生活への復帰や、フレイル予防を目的に、週1回の多職種カンファレンスで問題点を共有し、早期のリハビリテーション介入をしています。

心筋梗塞、心不全などでは心肺運動負荷試験（CPX）を積極的に施行し、運動耐容能を評価の上で適切な運動指導を行っております。

心臓病の運動処方と言っても、どのような運動をどの程度したら適切なのか良く分からない場合は、循環器外来（担当：火曜　中川、金曜　岡崎）までご紹介下さい。週2回火曜と木曜午後に外来CPXを行い評価いたします。

Featured Medical Departments

注目の診療科 3 放射線診療部門

（診療放射線技師）

医療安全を確保し、患者さんが安心して放射線診療を受けてもらえるように心がけています。

放射線診療部門の診療放射線技師について、長谷川真一診療放射線技師長、北村秀秋、秋田経理副診療放射線技師長に、部門の役割や取り組み、今後の抱負を伺いました。

当院における診療放射線技師の役割

放射線診療部門の診療放射線技師は、総勢57名で、各検査の部署に主任が配置されており、放射線診療の技術を担保しています。放射線診療部門では、エックス線撮影からマンモグラフィ検査、放射性同位元素（RI）を用いる核医学検査、胃や大腸などのエックス線透視検査、骨密度測定する骨塩定量検査まで、様々な検査を行います。また、CT、MRI、血管造影、放射線治療、PET／CT、SPECT／CTなどの大型医療機器による診療にも従事しています。

休日や夜間等での時間外の救急患者さんの検査の対応や人間ドックなどの検診にも対応し、多くの場面で患者さんの検査に携わっています。

放射線診療のほかに患者さんの医療被ばくの管理、検査による職員の職業被ばくの管理、放射線の医療機器の保守管理などにも対応しています。

医療被ばくの管理では、患者さんに使用した放射線の量を定期的に集計、解析し、医師、看護師、診療放射線技師により、検査の質（画質等）を考慮し検査による患者さんへの被ばくの最適化をしています。また、病院内での指針の策定、e-ラーニングを活用した研修の実施により病院内の放射線診療に関わる医師、看護師等に放射線診療による患者さんへの医療被ばくについて情報を共有し、患者さんが不必要な放射線で被ばくしないように取組んでいます。

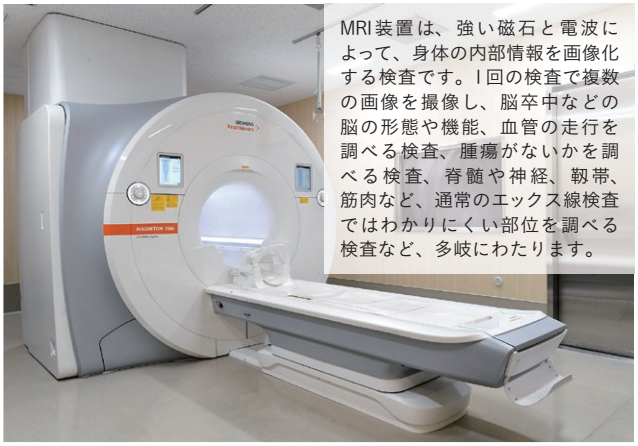
職員の職業被ばくの管理では、各職員が法令による線量限度を遵守し、被ばくを低減できるように放射線防護の取組みに努めております。検査時に職員の被ばくを低減させるための防護衣に破損等がないことを確認し、防護衣の管理を行っています。また、放射線診療室の外に放射線が漏出していないことを確認するために定期的に放射線診療室の外側の線量を測定し記録しています。

高度で多様化された放射線治療の技術に対応した取組み

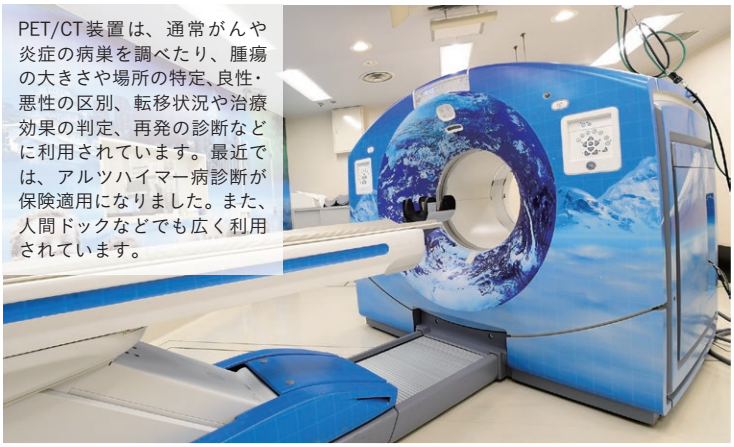
放射線治療は、医療技術と機器の進歩により、正常組織への影響を最小限に抑えつつ、病変部位に高線量の放射線を照射する方法が日常的に

放射線治療装置は、高エネルギー放射線によりがんまたは一部良性腫瘍の治療をする装置です。病変形状にあった照射野が整形でき、強度変調放射線治療（IMRT/VMAT）、定位放射線治療等の多様な治療に対応できます。また、撮影用エックス線により画像を取得し、治療前に腫瘍および正常組織の位置を正確に合わせることができます。

マンモグラフィ装置は乳房にエックス線を照射し、乳腺や脂肪、腫瘤、石灰化の吸収差を画像にします。乳腺や乳がん、石灰化は白く、脂肪は黒く写ります。撮影の際は乳房を強く圧迫し、薄く伸ばして撮影します。画像に写ったしこりや石灰化の特徴から、良性・悪性を診断します。マンモグラフィは早期乳がんに伴ってできる小さな石灰化を見つけるのに有用な検査です。



MRI装置は、強い磁石と電波によって、身体の内部情報を画像化する検査です。1回の検査で複数の画像を撮像し、脳卒中などの脳の形態や機能、血管の走行を調べる検査、腫瘍がないかを調べる検査、脊髄や神経、靭帯、筋肉など、通常のエックス線検査ではわかりにくい部位を調べる検査など、多岐にわたります。



PET/CT装置は、通常がんや炎症の病巣を調べたり、腫瘍の大きさや場所の特定、良性・悪性の区別、転移状況や治療効果の判定、再発の診断などに利用されています。最近では、アルツハイマー病診断が保険適用になりました。また、人間ドックなどでも広く利用されています。

行われるようになっています。また神経内分泌腫瘍に対するルタテラ治療など、体内にRIを投与し疾患部に集積させて治療を行うRI内用療法も実施しています。このような治療を安全かつ効果的に提供するために、診療放射線技師は以下の役割を担っています。

1．機器の管理

・放射線治療機器の定期的な点検とメンテナンスを行い、常に最適な状態で使用できるようにします。

2．患者さんの照射／投与条件の確認

・医師の指示のもとに患者さんごとに異なる照射／投与条件を正確に設定し、治療計画に基づいて放射線を照射します。

3．放射線管理

・放射線治療部門および核医学部門内では、放射性同位元素等規制に関する法律を遵守し、放射線管理を徹底しています。これにより、職員にとっても安心・安全な環境を維持します。

診療放射線技師は、これらの役割を通じて、患者さんに対して安心・安全な医療を提供することを心がけています。

また、診療放射線技師が高い技術を維持するために各検査に応じた研修の受講や認定等の取得に取組んでいます。従前医師等が行っていた造影検査や核医学検査における静脈路確保と造影剤や放射性医薬品の注入、血管造影検査におけるカテーテルの補助行為などにも対応し、医師のタスクシフト・シェアに貢献していきます。

医療安全の確保に努め信頼される組織へ

放射線診療部門では、造影剤の安全な使用、MRI室への磁性体金属の持込み防止、検査室内での患者さんの転倒の防止などの特有な医療安全の取組みがあり、細心の注意を払って検査を行っています。さらに、職員への医療安全の意識向上のため、定期的に放射線診療における医療安全に関する研修を実施し、組織一丸となって患者さん第一の「安心・安全な医療の提供」を何よりも大切にし、医療安全の確保に努めています。

また、当部門で検査を実施しているため、最初に検査の画像を確認することができます。その時に緊急性のある所見が見られたら、いち早く医師に報告し、検査の最前線からも医療を支えていきたいと考えています。

スタッフ一人ひとりが自らの能力を最大限に発揮し、医療の向上に貢献し、患者さんや医療従事者から信頼される組織を目指しています。

医療現場を支える専門・認定看護師たちの挑戦

第3回 リエゾン精神看護専門看護師

患者の精神的な変化に対応し、患者、家族、医療スタッフ間の橋渡しを行う

病気や障害を抱えた患者さんやご家族に、心のケアを専門に行うリエゾン精神看護専門看護師。
『チーム全体で心と体をつなぐケア』を促進する取り組みや今後の目標や課題についてうかがいました。

精神看護の専門知識を活かし、心と体をつなぐケアを促進

リエゾンは仏語のliaisonで、「つなぐ、連携する、橋渡しをする」という意味があります。

『リエゾン精神看護専門看護師』は、病気や障害を抱えた患者さんやご家族に、心の重荷や辛さが少しでも軽くなるよう、心のケアを専門に行う看護師です。

また、患者さんやそのご家族と、医療スタッフとの橋渡しをする役割もあり、医療スタッフのメンタルヘルスケアにも携わっています。

地域連携や次世代育成、市民向け公開講座の開催も

業務としては、患者さんや医療スタッフからの相談を受けて、精神看護の知識・技術を用いて、より良いケアの具体的な方法を提案しています。状況により医師の診察・説明への同席や、看護ケアに参加しながら心理的支援を多職種と共に行っています。

また、地域連携や次世代育成、市民向け公開講座の開催など、地域活動も行っています。

課題としては、高齢化に伴う認知症患者の増加や、スタッフの疲弊への対応です。また、患者さんやスタッフの価値観の違いから生じる調整も難しい点の一つです。

患者とスタッフを惹きつける魅力的な病院づくりを目指す

私たちが目指すのは、患者さんとスタッフを惹きつける魅力的な病院づくり、楽しく働ける環境づくり、風通しの良いコミュニケーション環境の実現に貢献することです。

患者さんと同じように医療スタッフを大切にし、お互いに尊重し合える関係性を築くことが大事です。また、職場環境の改善にも尽力し、仕事と私生活のバランスを取れる良好な環境作りを目指しています。

病棟で患者さんに直接、面談します。環境の変化や手術・集中治療等の身体的・心理的な負荷がないかなど、しっかり観察しケアにつなげます

専門・認定看護師の声

小川 弘美（おがわ ひろみ）

リエゾン精神看護専門看護師・副看護師長

治療においてメインキャスターは患者さんとそのご家族、患者さんの治療に関わる主治医や看護チームです。私たちリエゾン精神看護専門看護師は、そのメインキャスターを後ろから支える「黒子」かもしれません。

現在３名のリエゾン精神看護専門看護師が組織横断的に活動しています。患者さんやご家族だけでなく、医療スタッフの心のケア相談も行っています。心身の不調で休養することになった医療スタッフが復職する前には、復職前に産業医と共に面談を行い、復職後の職場適応がスムーズにいくよう支援しています。

今後はそれぞれの医療スタッフの役割や価値観を大切にしながら、互いに尊重し合いコミュニケーションが促進する、活気ある職場環境を目指しています。

また、みんなが活き活きと働けるよう、仕事と家庭のON・OFFのバランスを図り、仕事も家庭も楽しみつつ、充実した職場環境を作ることが目標です。

宮木 良（みやき りょう）

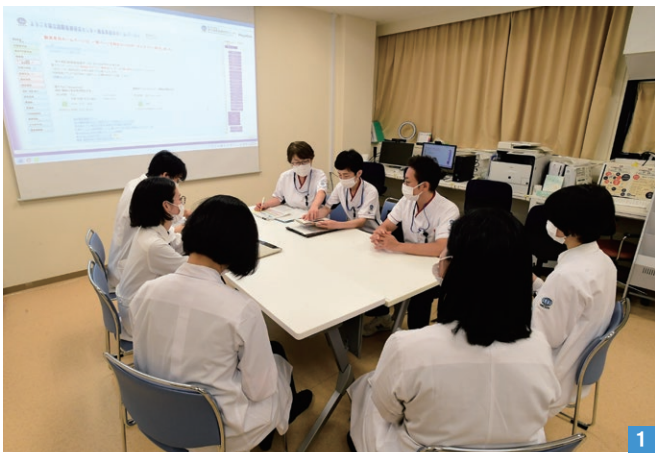
リエゾン精神看護専門看護師・副看護師長

私は、「マグネットホスピタル」という考え方に共感しています。「マグネットホスピタル」とは、磁石のように患者さんもスタッフも引き付ける魅力的な病院という意味ですが、そのような病院を作りたいと思って働いています。患者さんもスタッフも大切にして関わっていけるように、出来るだけ病棟に出向き、ベッドサイドで直接お話を聞くことを心がけています。また、質の高い医療に結び付くように、多職種でのチーム医療が促進するよう取り組んでいます。

宇佐美 友紀子（うさみ ゆきこ）

リエゾン精神看護専門看護師

日々、患者さんをケアしているスタッフからの相談を受けて、精神看護の知識・技術を用いることで、より良いケアの具体的な方法を提案しています。また、多くのスタッフが「看護の楽しさ」を感じられる関わりを意識しています。そして、患者さんの変化をスタッフと共有しケアの成果を振り返る機会を作るように心がけています。



1 カンファレンス参加　2 スタッフの疲弊はないかなど、メンタルヘルスケアをおこなう　3 移動される病棟の担当の看護師長より患者さんの状態を聴く　4 患者さんの様子を聴き、記録作成し適切なケアをおこなう準備をおこなう

NCGM National Center for Global Health and Medicine
PRESS 10
October 2024
Vol.14
発行日：2024年10月15日
発行：国立研究開発法人　国立国際医療研究センター病院
病院広報管理部門

■ 人間ドックセンターのご案内

長い歴史をもつ当人間ドックセンターは、その歴史と経験に基づき、お客様からの安心と信頼をいただいており、その期待にお応えできるよう全スタッフが心を込めてお迎えしております。施設内は広めのフロアでゆったりとしており、スムーズに検査を受けていただけることはもちろん、病院の専門診療科とも常に連携を取っており、ご病気が発見された際には、迅速に専門診療科へご紹介しております。

また当院の特徴として、胃と大腸の内視鏡検査が同日に行えるコースや専門診療科とタイアップしたコース、PET-CT 検査などの様々なオプション検査をご用意しており、皆さまの生活習慣や既往歴などに合せて、ご自分でご自由にお選びいただけます。日帰りコースだけではなく、ご宿泊コースもご用意しており、お部屋からの夜景やお食事を楽しみながら、時間にゆとりをもって検査をお受けいただけます。

■ ご寄付のお願い ～医学研究の発展と優れた人材の育成のために～

当センターは、センター病院・国府台病院という 2 つの診療拠点に加え、研究所・臨床研究センター・国際医療協力局および国立看護大学校を擁し、高度総合医療を提供するとともに、特に感染症・免疫疾患ならびに糖尿病・代謝性疾患に関する研究・診療を推進し、これらの疾患や医療の分野における国際協力に関する調査研究および人材育成を総合的に展開しております。

当センターの活動を推進し、使命を十分に果たすためには、その活動財源を安定的・多面的に確保することが必要不可欠です。課せられたミッションを実現して国民の皆さまに成果を還元するための財源に関して、企業や個人の皆さまからの寄附によるご支援をお願いいたします。

何卒、当センターの寄附の趣旨にご理解頂き、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

ご寄付のお願い

■ 診療時間

■外来診療時間　8：30 ～ 17：15
■初診受付　8：30 ～ 11：00

※休診日や完全予約制を設けている診療科もありますので、必ずホームページをご覧ください。

■ 患者支援アプリ導入のご案内

3 月 26 日より、患者支援アプリ「Wellcne（ウェルコネ）」を導入いたします。お手持ちのスマートフォンにインストールし、登録のお手続きをいただくことで、診察待ちの状況や、外来の予約の確認などができるようになります。

〇診察待ち順案内が届きます 〇アプリ決済（後払い会計）が可能
〇受診予約が確認できます 〇院外処方箋の送信が可能です。
〇医療情報の確認が可能となります。

国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院
〒162-8655　東京都新宿区戸山1-21-1
TEL 03-3202-7181（代表）
https://www.ncgm.go.jp/index.html

■地下鉄をご利用の方

都営地下鉄　大江戸線　若松河田駅（河田口）から徒歩5分
東京メトロ　東西線　早稲田駅（2番出口）から徒歩15分

■都営バスをご利用の方

- 新宿駅から（宿74系統）医療センター経由女子医大行き
  「国立国際医療研究センター前」下車　徒歩0分
- 大久保・新大久保から（橋63系統）新橋行き
  「国立国際医療研究センター前」下車　徒歩0分
- 市ヶ谷・新橋から（橋63系統）小滝橋車庫行き
  「国立国際医療研究センター前」下車　徒歩0分
- 都営飯田橋駅前（C1またはC3）から（飯62系統）
  牛込柳町駅経由小滝橋車庫行き
  「国立国際医療研究センター前」下車　徒歩0分